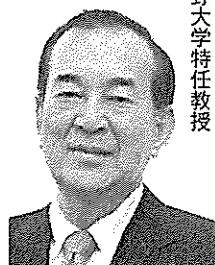


忘れてはいけない 「平成」の記憶

「天皇陛下の『おことば』」「東日本大震災」「トランプ出現」から、「日本型経営の終焉」「うつ病」まで——平成日本に生きた者として、忘れてはならない出来事を振り返る!

14

山内 昌之



武藏野大学特任教授

いちばん平成の時代らしい書物は『昭和天皇実録』ではないだろうか。本実録の叙述スタイルは、昭和天皇一代の歴史を扱っている点で断代史のカテゴリに入るが、全体として『帝紀』や『本紀』のように君主を中心に入れるが、しかし実録では、或る事の顛末を一か所でまとめて叙述する紀事本末体も適宜併用した。これによって、平成の時代認識や新史料を昭和に遡って活用することが可能になった。

紀事本末体の重要例は、宮内庁長官富田朝彦の挾謁を受けた昭和六十三年四月二十八日条の記述である。これは、宮内記者会の質問に「なんといつてもいぢばんいやな思い出」は第二次世界大戦だと答えた二十五日条記載の発言に関係するものだ。これに統いて、靖国神社のA級戦犯合祀と自らの参拝について「述べられる」と、実録は具体的な内容に触れずに、発言し

「昭和天皇」という歴史 平成に生きる歴史家としての責任感が見せた意地

昭和天皇実録
全十八巻

宮内庁 編修

東京書籍・税
1700円~

七月二十日に日

本経済新聞が
「富田長官のメモとされる資料」
を報道した事実を記録する昭和六
十三年の箇所に、時系列では遅
い平成十八年の報道事実を合わ
せて記録したことになる。

これは宮内庁修史官の史料に
対する一つの姿勢を示している。
ここでは、単純な編年体叙述で
なく、靖国参拝に関連する事柄
について紀事本末体をとること
が適當だと判断したのだろう。
ただし、富田メモでの天皇発言
の内容については、一切触れら
れていない。古典的に言えば正
史ともいえる昭和天皇実録への
記録には、複数の文書や証言が
なければ、一史料を直ちに平成
の時代の重要な政治外交トピック
を左右しかねない叙述に使わな
いという慎重さの表れであろう。

それと同時に、紀事本末体で事
実を記録したのは、平成に生き
る歴史家の責任感も帶びた修史
官がぎりぎりで見せた意地だつ
たのかもしれない。

た事実 자체を認
めている。その
うえで実録は、
「なお」という
但し書きを使つ
て、平成十八年